

### 第38回 鹿児島県PTA連合会

「小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校PTA広報紙コンクール」審査評

#### 1 総合所見

- (1) 新型コロナ、インフルエンザ等の感染症が現在でも心配される中ではあるが、各学校のPTA活動も、元に戻ってきた。それに伴って、広報紙コンクールへの出品数の減少にも歯止めがかかった。
- (2) 全ての校種において、テーマ性のある紙面づくりを意識して、PTA活動活性化のための広報紙づくりを行う意欲と努力が感じられる。見出しや色使い、レイアウトなど工夫されて、読みやすい広報紙が多くなった。
- (3) 小学校は、学校便りやHPとは異なる、PTA新聞ならではの記事の作成を意図した広報紙づくりが目を引いた。PTA専門部活動の見直しを行い、会員がPTA活動に関わりやすくしようという学校が増えてきた。そのことをわかりやすく広報していた。作成に手間はかかると思うが、会員へのアンケートやインタビューの記事は読み応えがあった。
- (4) 中学校は、効果的に写真を取り入れ、その写真に関連する文章・コメントを入れて、読みやすい広報紙づくりをしている学校が多くなった。近年、制服や校則の見直しを行う学校が増えてきた。そのことを記事にして、会員に周知していた。また、2学期の広報紙では、体育祭や職場体験学習の記事が多く掲載されており、各学校の取組の様子が、よくわかった。
- (5) 義務教育学校の応募も増えてきた。9年間の学校教育の良さと特長を生かした広報紙づくりを考え、児童生徒の成長の様子が見てとれる記事は、読んでいて大変楽しく興味深かった。
- (6) 高等学校、特別支援学校も、質の高いものが多く、選考に苦慮した。審査の際、「PTA新聞」としてPTA活動や保護者の声を伝えようとする広報紙を中心に選んだ。入賞作品は、活動の様子を撮った写真や活動に参加した感想、保護者へのインタビューなど、学校新聞や生徒会新聞とは一線を画した「PTA新聞」ならではの紙面づくりがなされていた。
- (7) web版の学校が5校あったが、その良さが発揮され、発行回数も多く、タイムリーな記事を扱い、画像をふんだんに掲載し、その特性を活かしていた。ただ、写真だけでなく、その写真に関するコメントをもう少し詳しく入れてほしい。
- (8) 県PTA広報紙担当者研修会・PTA広報紙コンクール、県内各地での広報紙研修会の開催により、紙面の充実と質の向上が図られているのは喜ばしいことである。

#### 2 今後の課題（留意してほしいこと）

- (1) 年間テーマ・年間編集計画等を策定し、計画的に取材、編集を行ってほしい。
- (2) 文字の大きさや書体、濃淡、色使いなど、基本的なことに気をつけてほしい。
- (3) 職員紹介や学校行事の写真、生徒や教職員の書いた文章だけで紙面を埋めるのではなく、PTAだからこそ作れる新聞という視点がほしい。
- (4) 編集後記があると、責任の所在が明らかになるとともに、新聞作成の意図やこだわり、苦労などが伝わってくる。
- (5) 今後も、他校の優れた広報紙を参考にしたり、広報紙担当者研修会に参加したりして、PTA広報紙の内容の向上とPTA活動の充実を図っていただきたい。